

5月29日(金曜日)「祝福されていたヨブ」

【新改訳 2017】

ヨブ記 1・1-12

「サタンは主に答えて言った。『ヨブはいたずらに神を恐れましょうか。……あなたが彼の手のわざを祝福されたので、彼の家畜は地にふえ広がっています。』」(9、10節)

旧約聖書の中のヨブ記は、「潔白で正しい人がなぜ苦難にあうのか」という一大テーマを追究しているユニークな書です。叙事詩劇の形式で記されている文学的作品でもあります。

ヨブはたぶん、族長時代に生きていた人と思われる。彼は潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっていた敬虔な人でした。東の人々の中では一番の富豪でもありました。

彼は、神に祝福された人でした。そのことは、

サタン(悪魔)でさえも認めて知っていました。興味深いことです。古代にも敬虔で実直な人は、やはり神によって祝福されていたことがわかります。実は、大きくても小さくても、豊かさは神の祝福であることを覚え、感謝したいものです(創世24・35参照)。

～祈り～

主よ。特別な財産は何もなくても、今与えられているすべてが、あなたのあわれみの祝福であることを覚え、心から感謝いたします。

【学びのために】

ヨブ記という名称は、この書の主人公として記されているヨブの名前によります。彼を架空の人物という人もいますが、表現や内容からして歴史上の人物と考えます。1-2 章は序論、3-42 章 6 節は本論、正しい人の不幸についての論争、42・7-17は結論。